

TAさんへのインタビュー (no.011)

○プロフィール

名前：TAさん 性別：男性

学部：同志社大学経済学部

インタビューとの関係性：同志社大学全学 EVE 実行委員会

普段の活動：バイトとサークル活動の両立。

内定会社：1つ。INOBUN 流通小売 店長業務 経営

エントリーシート：40社。実際に受けた企業数：15社ぐらい。

現状：親が納得するまで一応大企業を狙って就活を続けている。

～面接開始～

○ どうしてこの就職先にしたのですか？

社員さんの人柄に惹かれ、面接官が自分と似たような雰囲気の人だったから。

どこの会社よりも楽しそうで、どの業界というよりも会社の雰囲気に注目して選んだ。

○ 他に受けた企業はどこですか？

アップルコンピューター、東宝、ANA、JTB、京都銀行など・・・。

しかし、様々な企業を受けたが大企業よりも雑貨店の仕事が楽しそうだと感じた。

給料とかよりも内容に惹かれた。

○ 面接で驚いた内容とは？

自分を象徴しているものをひとつ持ってきてください。

⇒INOBUN で聞かれた面接内容。

○ 就職活動で一番大変だったこと、それをどうやって乗り越えていましたか？

精神的に辛く、将来の事がかかっているというプレッシャーがあった。1月・2月に他のしなければならない事(会計報告)と重なり大変だった。睡眠時間を削って頑張りました。

○ 就職活動で得たものはなんですか？

一番は「根性」。また自分を客観的に見るようになり、身の程を知ったと思う。

イメージだけで様々な企業を受けたらダメだとも思った。

○面接はどんなことを聞かれましたか？

学生時代に何を頑張ったか。とはどこでも聞かれ、サークルと EVE 実と答えた。

お父さんは何をしているの？お母さんはどのような仕事をしているの？など家族のことも聞かれた。

○なぜ大企業は嫌だと思ったんですか？

大企業は嫌。会社の歯車になりたくないし、上下関係が厳しそう。自分の意見が通らなさそう。仕事をやらされたく、受身よりは自分で進んでやっていきたいから。

面接を行なっていて、面接官はどのような部分を見ていると感じましたか？

○後輩へむけてのアドバイス

・面接は準備から。答えるを予めちゃんと用意しておきましょう。シュミレーションしておくことが大事。

- ・ エントリーシートは正直に書けて思う。嘘を書いたら絶対にばれるから。
- ・ パターン化されて面接では聞かれる。だからエントリーシートコピーしておくこと。
- ・ エントリーシートは早く出しましょう。郵便局が混み合います。
- ・ パンフレットから見えてこない雰囲気を知りたいければ OB・OG 訪問をしたらいい。
- ・ SPI より適性検査が多かった。
- ・ 自己分析は早い目に。余裕があれば SPI やっておくべき。

○今年の就活はどう思いますか？

今年は大変そうだと思う。周りの人の半分以上は決まっている。大体 6 割 7 割が決まっている。何事も自分に自信が無い子は大変そうだと感じた。

○まとめ

自分が学生時代にやっていたことがその会社でどのように活かすことができるのかという事を繋げて話すことが出来たら良いのではないかと思った。会社によってアピールする要素が実行委員をやっていてあったし、応用がきくことが多かった。面接はエントリーシートから聞かれるので何でその資格を取ったのかや、業界志望やったら他の業界はどう？とか聞かれるので面接では深く聞かれるのでちゃんとシュミレーションをしておいた方が良くと思いました。

T Bさんへのインタビュー (no. 012)

○プロフィール

名前：T Bさん 性別：男性

学部：同志社大学法学部法学科

インタビューとの関係性：同志社大学全学 EVE 実行委員会 委員長

普段の活動：2回まで能楽部金剛会、学友団執行委員会 企画情宣

内定会社：4つ

業種：ベンチャー、教育業界

現状：2社で迷っている。

エントリー：130社程度

○選んだ基準とか教えてください。

自分のやりたい仕事ができるところが良かった。やりたい仕事はこれからの方向性作っていけることができること。仕事を調べたのは本とかで、直接会社説明会に行ったが、大規模の就職説明会は行ってない。

○どうしてこの就職先にしたのですか？

社長さんの人柄が良かった。ベンチャーの方がそう思った。同志社大学のOB（スキー関係の人でその人とあまり直接的な関係はない）の引っ張りがあつて。色んなところで若手社長が集まる時に知り合った。懇談会みたいなセミナーがあつた。

そこで選んだ理由は「会社規模がでかかったから、収益がしっかりしている。ブランド力。将来性がある企業。」だったから。出会って3日で決まった。

「仕事内容が良い所がいい。ある程度の収入は気にした。」35歳ぐらいで年収1000万ぐらいの収入がある会社にしようと思っていた。

○面接で驚いた内容とは？

会社のブラックな内容を赤裸々に語られたこと。コンサルタント系の企業で。

○就職活動で一番大変だったこと、それをどうやって乗り越えていきましたか？

3月の中旬が一番大変だった。面接とエントリーシートとが被ったり、エントリーシートが落ち始めたり。乗り越える対策としては、「割り切るようにする。」「それも縁かなって思うようにした。」そうです。

○ 就職活動で得たものはなんですか？

将来について真面目に考えた事。大学の中ではどんどん上にいくけど、社会の中で自分は未熟だと思った。行動力やどういう立場かそれで自分の立ち振る舞いなどを再認識するようになった。

○ 勤務地にこだわりましたか？

こだわらない。最終的には起業したいので。田舎にかえっても食いつなげて行けるぐらいに稼ぎ、社会的企業化を目指している。

○ 面接の工夫

相手や会社の性格に合わせた。会社説明会に行って、会社の色を見てこの会社はどのような人材を求めているか考えてやっていた。それに合わせて面接の準備をした。なるべく素の自分を出ようにした。

○面接を行なっていて、面接官はどのような部分を見ていると感じましたか？

話の論理性、コミュニケーション能力。「よろしくお願いします」で決まる。最終面接で。

○ 反省

- ・もう少し、浮き沈みが無いほうがいいなと思いモチベーション管理は必要。
- ・SPIは忘れたらダメ。大手を受ける人はいる。商社とコンサルタントはいる。
- ・成績は、銀行関係はいる。WEBテストはもしかしたら、学歴で落とされたという響きが悪いのでWEBであれば平等なので、行なっているという。。。(うわさ)

○ 後輩へのアドバイス

- ・就活にやっている時に、他の楽しみを見つけておく。
- ・会社説明会とかで一緒にやった仲間は大切にしたらいいと思う。
- ・情報の共有をしてみる。
- ・男の子の場合、夏のインターンシップで早く挫折を味あうこともいいかも。

○まとめ

2回目になって前回よりはインタビューで聞きたいことが増えて要領を少しずつ分かっていくようになった。OB/OGとのつながりや「縁」という言葉を良く聞いたインタビューであった。実際に会社の人と会ってみることが大事で、つながりや縁は広がると思うし会社説明会などをヒントにこの会社はどのような人材を求めているかという研究することも大事であると思った。

TCさんへのインタビュー (no.013)

○プロフィール

名前：TCさん 性別：男性

学部：同志社大学経済学部経済学科

インタビューアとの関係性：顔見知り

普段の活動：プロレスとか塾のバイト

内定会社：2社 マルハン・学校法人同志社 専任職員

エントリーシート：12・13社

現状：同志社の職員になると決めている。

～面接開始～

○どのようにして企業を選択していきましたか？

基本的には業界とか業種にこだわるのではなくて趣味とか生活とかに近いところを選んだ。業界はバラバラ。ホテルとか地元企業が多かった。全国展開よりも地元中心で行なっている企業が良かった。おたべや京阪の流通関係が多かった。全国のところも受けてはいたけど、やはり関西が優先だった。自分が知っているとかどういう物を発売しているのかを説明出来る会社に行きたかった。説明会で良いなと思ったのは唯一plan do see という会社である。既存のホテルにはって働こうって気はないが、プロデュースしていきたいという気持ちがあった。古い建物をレストランにしたりしているなどに、興味があったので当初の第一希望であった。

○他に受けた企業はどこですか？

おたべ、京阪関連、ミズノ、Plan do see、地方銀行、Book off、マルハン

○面接で驚いた内容とは？

- ・得意技ってなんですか？
- ・異様なほど落ちつきあがあるね？

■同志社の面接が一番驚いた。

1対8ぐらいの面接。(同志社)最終面接も8人居た。現状の大学について。これから大学はどのような方向にすすむべきか？大学のステークホルダーで一番重要だと思うのは誰ですか？常にちゃんとそれなりの考えを持っているのではないかっていうところを見ている。

○ 今年の就活について

今年の特徴として最終で落とす人が多い。たぶん内定出して途中までの研修であっても費用がかかるので・・・すごく感じたことである。

○ 就職活動で一番大変だったこと、それをどうやって乗り越えていったのか？

バイトと被っていて大変だった。3月は4回生がいなくなる。一番ベテランに仕事が回ってくるから。3・4月が特に忙しかった。色んなところに行くのが好きだから就活を楽しんでいた。色んな人とも会えるし、それきっかけの友達もいるので、義務と感じるよりも経験として考えたほうが良いと思う。チャンスとして捉えたほうが良い。自分の中で考えすぎるとドツボにはまる。

○ 面接の工夫

最低限の事は常に言えるように頭の中に雛形を作っておく。基本的に喋るのは得意なほうやから。余裕を持つ事。心持⇒これで落とされるかもしれないと思って受けたらダメ。話をしていると思う。自分を知ってもらおうという機会だと考えた方が良い。

○ 勤務地について

行きたいと思う会社であればいろんなところに行く。地元を離れたくないという気持ちもあった。全国でもいいなと思ったのは1社だけ。

○ 就職活動で得たものはなんですか？

スケジュール管理の能力。度胸。もっとたくさんあるが、これが一番得られたものだと思う。

○ 反省点

もうちょっと数受けていても良かったかなって思った。マルハンを受かって、滋賀銀行の最終まで行って「同志社の期待のホープ」など言われていて受かると思っていたのに受からなかった。コマが段々減っていき受からないとやばいと思った。

就職活動は12月ぐらいから始めた。

○ 後輩へむけてのアドバイス

楽しめ。この機会って一回しかないから今回する・しないに関わらずプレッシャーと感じるのではなくチャンスだと思って欲しい。

○ まとめ

大学職員が人気となってきたという話を聞き、同志社の職員を志望されている方をインタビューする事が出来た。大学職員は福利厚生が充実していたり、給料が安定、また将来潰れることが滅多にないなどのメリットが多いそうだ。常に色んな事に興味を持ち、話を広げられるように出来る人と、プレッシャーよりもチャンスだと捉える人など、就職活動における就職活動生の心の持ち様などをたくさん話してくださった。

TDさんへのインタビュー (no. 014)

○プロフィール

名前：TDさん 性別：女性

学部：同志社大学文学部文化史学科

インタビューアとの関係性：同志社大学全学 EVE 実行委員会

普段の活動：バイト&研究、EVE 実・オリ実、教育実習

内定会社：近鉄百貨店

エントリーシート：40社ぐらい。

現状：よっぽどのことがない限りそこに決定

～面接開始～

○業界選びはどのように行ないましたか？

アルバイトで靴屋の接客業をしていてそれが楽しかったのと、百貨店が好きやったから。仕事内容は販売とかが主になって、広報、人事とかに行くと思う。

○他に受けた企業はどこですか？

食品メーカー 製薬会社、物流、鉄道、百貨店業界

○選んだ基準とか教えてください。

名前を知っていたところや、自分の身近にあるものなどを受けた。給料とかを見て。学校の説明会に行った。リクナビのイベントは1回だけ行った。

○就職活動で一番大変だったこと、それをどうやって乗り越えていきましたか？

立て続けにエントリーシートと面接が落ちたこと。友達と会ったりとか就活中に出来た友達とかと話したりして、ストレス発散していた。周りの人たちが決まり出すとあせる。

○就職活動で得たものはなんですか？

友達。想像以上に社会は厳しいと思った。絶対的なミスは許されないと思った。

○面接はどんなことを聞かれましたか？

学生時代に頑張ったことや何で志望したかや、どんな業界今受けているのか？業界と業界の接点などを聞かれた。自分の長所とその長所を活かしてどのようにやっていくことができるか？などが聞かれた。

物流はジェンダーバイアスを感じた。すぐにやめちゃうよね？仕事汚くてしんどいけど我慢できないよね？などと聞かれる圧迫面接であった。中小とか受けに行ったら一般職ですよ？って聞かれた。

○面接を行なっていて、面接官はどのような部分を見ていると感じましたか？

目を見ていると思う。はきはきした態度が必要だと思った。臨機応変に対応するところ。声の大きさ（営業）は見られていると思う。

○ 面接の工夫

目を見てしゃべるようにしていた。コミュニケーションとるようにした。一方的じゃなくて。他の人がしゃべっている時にはその人がしゃべっている人を見る。（どこかの会社で言われた）

○ 面接で驚いた内容とは？

- ・無人島に持っていくとしたら何を持っていきますか？
- ・私に何かお勧めしてください。
- ・宅配員のマナーはどうですか？
- ・日本人の道徳観について教えてください。

○ 勤務地について

全国いけるって答えた。私は大阪本社の子会社を受けていた。地元が大阪なので。

○ 反省点

業種絞りすぎた。もっといい会社があったのに、名前だけしか見ていなかった。大きな会社にいけると勝手に思い込んでいた。自己分析もせずに営業っていう感じで決め付けていたところがある。自分は出来ないって決め付けていたと思っていたところがあった。頑張れば手のとどくところにあたりるので、受けたほうが良い。

○ 後輩へむけてのアドバイス

やりたいことはとことん遣り通したほうが良い。こんな会社は無理と思っても、変にあきらめるのではなく、やっていったほうが良い。妥協しないほうが良いと思う。

○ その他

体育会、全学組織（京都の古いところ）、女性、「営業・販売のアルバイトの違い」は好む企業と好まない企業がいる。学歴の差は面接などではいっさい感じなかった。学歴フィルターはもっと前である。

○ まとめ

女性の面接をすると、やはり男性の面接とは異なる事が多かった。男性よりも総合職と一般職の差を感じることや、物流関係で現場で働きたいと言っても我慢できないなど、最初から決め付けているのではないかと思った。

TEさんへのインタビュー (no. 015)

○プロフィール

名前：TEさん 性別：女性

学部：同志社大学文学部国文学科

インタビューとの関係性：同志社大学全学 EVE 実行委員会

普段の活動：サークル活動（冊子・講演会の企画）とバイト（接客業）、ボランティア（大学での場合は留学生のサポート）

内定会社：1社：みなと銀行

エントリーシート：15社ぐらい

現状：今現在はメーカーを中心にエントリーシートを出している。

～面接開始～

○ どうしてこのような業界に行きたいですか？

日本の電化製品に興味を持ったのは留学をしていたときに日本の製品の評価高さに感動したから、今メーカー（パナソニック）を受けようとしている。

○ 他に受けた企業はどこですか？

食品業界、金融、メーカー

○ 選んだ基準とか教えてください。

食品やメーカーは名前を知っていたり、商品を知っていたりするところが良かった。なんとなく商品を知っている企業はエントリーを出しやすい。テレビなどCMとかは影響している。

○ 就職活動で一番大変だったこと、それをどうやって乗り越えていましたか？

面接と面接がかぶる。エントリーシートが落ちることが一番つらかった。エントリーシートはなんで落ちたのかわからないから原因追求が出来ない。それを乗り越える方法としてPCにブックマークしていたその会社のサイトとかを消した。落ちた分、新しいところにエントリーするようにした。料理をするなど、自分なりのストレス解消をした。

○ 就職活動で得たものはなんですか？

自己分析のおかげで自分の人生を振り返れたこと。現在の社会の厳しさを知った。

○ 面接はどんなことを聞かれましたか？

自己PR・学生時代に頑張ったこと・企業・業界の志望理由・入ったら何をしたいか？金融は父親と母親の仕事を聞かれた。留学したり、今まで私学の学校にしか通った事が無かったので、よく学歴について聞かれた。

○ なぜ金融は就職したくないのですか？

両親が働いていて、嫌な話をいっぱい聞いているから。自分にとって金融の業務内容

にやりがいを見出せない。後、結婚を考えたら金融は辞めておきたい。

○ 面接で驚いた内容とは？

- ・あなたを色に例えるとなんですか？
- ・自分を精一杯ほめてください。
- ・人生で自分を一番嫌いになったときはいつですか？
- ・親友を批判して下さい。
- ・頑張ったときの服装できてください。

○面接を行なっていて、面接官はどのような部分を見ていると感じましたか？

一次面接⇒人柄、基本的な礼儀、人間性

二次面接以降⇒業界への理解度、頭の回転の速さ、適性、やる気

グループディスカッション⇒協調性、人間関係の作り方？、コミュニケーション能力

○ 面接の工夫

面接は基本的なマナーとか目を見て話す。細かいマナーに注意した。自己PRとか暗記するところがあるが、暗記していますっていう風には見られないように気をつけた。

○ 勤務地について

特にこだわっていない。関西には居たいとは思ったが、メーカーとかだったらいろいろなところに行かされるし・・・。

○ 反省点

業界を絞りすぎた。自分がTVのCMなどのネームバリューにとらわれてしまっていた。企業をもっとたくさん見るべきやった。8月から就職活動を始めていたが、10月11月はEVEで活動できなかった。もう一つは自己分析をあんまりしなかったこと。重要性を理解していなかったこと。エントリーシートを甘く見ていたこと。2009年度卒業生の体験記などは就職活動がやりやすく、内容が甘くてあまり参考にならなかった。

○後輩へむけてのアドバイス

面倒くさがらずに就職活動に興味を持っていろんな企業を見て回ること。安易に業界を絞らないこと。自己分析をしっかりやること。人生をちゃんと振り返らないとだめ！アピールの仕方の問題だと思うので、練習次第で大丈夫。結婚しても仕事しますか？転職できますか？と良く聞かれるのでちゃんと答えること。

○今年の就活はどう思いますか？

厳しい。先輩たちのアドバイスが甘かった。エントリーシートでバンバン落としてくるようになっている。最終で落とされたりもするので、大変そう。ネットカフェで隣に居た同志社よりもすこし学歴が下回る大学で説明会さえ入れないことがあったので、学歴格差もすごく感じた。

○ まとめ

女性のインタビューは結婚や転職などのジェンダーバイアスが多いのかなと思った。勤務地など、全国どこでも行くと言っても基本的に地元に住たいという気持ちがあるように思えた。企業も3年ぐらい働いたら女性は辞めるという考え方なのだろうか？また両親が働いている業種の仕事をしつづける人が多いように感じた。

TFさんへのインタビュー (no.016)

○プロフィール

名前：TFさん 性別：男性

学部：同志社大学 商学部 卒業

インタビューアとの関係性：高校のクラブの先輩

普段の活動：大学時代は野球サークルに所属しておられた。

就職先：神戸製鋼 内定会社：自動車部品メーカー、精密機械関係

エントリーシート：36社

現状：人事に所属されて、現場に近いところで働いている。

～面接開始～

○業界選びはどのように行ないましたか？

メーカーのみ狙っていた。関西に本社を置く会社が良かった。最後まで行ったのは10社程度で京セラの説明会は一度だけ行ったがあまりよくなかった。2月中は4日以外はどこかの企業に行って説明会を受けていた。勤務地は全国どこでも良かったが、本社は関西が良かった。生まれも育ちもこっちで、ノリが関西の方が自分にあっていると思うから。

手当たり次第、説明会には行っていて大手はネームバリューで決めていたが、小さい会社は説明会で知ってエントリーする形が多かった。という事で関西に本社があるメーカーを重点的に選んだ。

○就職活動で一番大変だったこと、それをどうやって乗り越えていきましたか？

2月が一番しんどかった。3月中には内定があったのでそこからは内定という事で余裕が出てきた。4月17日に就職活動は終えた。メーカーは4月から面接で1日4社とか一気に面接の日とかあった。次の日に結果が出てという繰り返しだった。ストレス解消法はバッティングセンターに行っていた。

○就職活動で得たものはなんですか？

本音と建前という事を知った。多くの人では嘘についてはいけないと思うが、笹山さんはある意味素直な人なので、建前も大事だと感じたそう。

○面接はどんなことを聞かれましたか？

企業理念について聞かれた。

○面接の工夫

エントリーシートのコピーや、そこに予定を書く。未だにそれを持っている。

○面接で驚いた内容とは？

- ・ あなたを色で例えると？
- ・ あなたを漢字一字で例えると？
- ・ シャープの面接が英語だったこと。
- ・ 義理人情を重んじる人が人事は無理でしょう？
- ・ Honda の車は好きですか？

○ 勤務地について

全国どこでもいいが、関西に本社を置く会社が良かったそう。阪神タイガースファンという事もあり、巨人ファンの人と一緒にデスクを並べるのは嫌だと言ったり、印象に残るような伝え方をしたそう。

○ 反省点

特になし。そこまで不景気でもなく、最終まで10社も行っていたので挫折もあまり味わってないと思う。

強いて言えば、セミナーとか興味がなかった分野のセミナーでも何か役に立つ事もあるかもしれないので行っておけば良かった。

○ 就活中と就職後のギャップってありますか？

福利厚生がイマイチであった。残業とかは人事だからないが、サービス残業している部署はあると思う。フレックスタイムの採用している。

また意外だったのは労働組合と会社が仲良しであったこと。

○ どうして人事にこだわったのですか？

営業は一方的に感じて押し売りじみたところがあるように思える。人事は現場重視であったり、対社との双方向なイメージであった。環境づくりなど、人々が働きやすい場所にしたいと、遣り甲斐よりも感謝されるような部署が良かった。

○ 決め手になった事って何ですか？

大手で、場所（関西本社）、リクルーター面接で知り合い、また人事がやりたいが義理人情を重んじるという考え方であっても、採用してくれた会社に行きたかった。また、会社の雰囲気や、そこの人々（面接官など）また歴史が長いので保守的な会社を選んだ。

○ まとめ

初めて就職された人にインタビューを行なった。様々なアドバイスも頂き、女性の方がどのように働いているかなども聞いた。やはり守秘義務なども多くあるようでどこまで聞いて良いのか迷ったが、会社の雰囲気が分かり OB・OG 訪問は大事と感じた。面接の質問コーナーなどで聞けないことも聞けたりするので、訪問なども必要かもしれないと思った。

T Gさんへのインタビュー (no. 017)

○プロフィール

名前：T Gさん 性別：男性

学部：同志社大学工学研究科工業化学専攻

インタビューアとの関係性：友人

普段の活動：野球サークル、研究、バイト

内定会社：1社

エントリーシート：80社程度

～面接開始～

○ どのようにして企業を選択していききましたか？

自分のやりたい事が出来る企業を選んでいて、ホームページのみで見つけたところへ、その会社が開いているセミナーに行っていた。工学部という事もあり、業種は生産技術の会社を選択している。

○ 他に受けた企業はどこですか？

化学メーカー、飲料メーカー、印刷業界を主に受けた。

同業者を受けるために様々な企業を見たかったので一つの企業に絞らずに受けていた。そしてそこから選ぶようにしていた。各会社の長所も短所も見て選びたかったから。

○ 面接で驚いた内容とは？

エントリーシートと技術面接に対するダメだしがあったこと。

○ 今年の就活について

個人的には氷河期だとはさほど感じなかった。コミュニケーション能力、対応力がある人、つぶしがきく人が受かっていたと思った。自分の弱みだと思うところをきかれても答えられる人が良いと思った。

○ 自分が軸としていたもの

仕事内容、業種、給料、軸としてたものは縁の下の力持ち、

化学工学系の人たちは目立たないような仕事していること。それがなければ成り立たないから。

○ 就職活動で一番大変だったこと、それをどうやって乗り越えていったのか？

3月の中旬で様々な地域に行っていたので移動距離が増えたことなどスケジュール的な部分で大変だった。時間を見つけて地元ではないところで観光地めぐりをして乗り越えていった。

○ 面接の工夫

面接全てを練習だと思って受けていた。心構え一つで変わってくると思う。就活という意識ではなくて企業とのお見合いだと思って望んでいた。

○ 勤務地について

全国どこでも行くといった。理系で工場は関西には滅多にないので、全国どこでも行くといったが、ただし関西本社の方が良かった。

○ 就職活動で得たものはなんですか？

一言で言えば、思い出。その場の出会いや、経験（自分の中での）就活は一生に一度なものなのでポジティブにやろうと思ってやっていた。

○ 反省点

大学院生のわりにエントリーシートしすぎた。さっさと決めすぎたかもしれない。その会社が必要としていたと感じたのでそこにすぐに決めた。他に受けようと思っていたところもあったので受けていても良かったのかもしれない。

○ 後輩へむけてのアドバイス

今のうちに礼儀を見つけた方がよいと思う。礼儀をしらない人が多いように思えた。

○ まとめ

理系の大学院生という事もあって少し学部生とは違う部分があった。技術系だということもあり、ある意味限られた中での就活であるのかという印象だった。他の学部生と比べ3月下旬に内定を貰っていた。理系は技術を求められているので研究が大切な就活での要素であるなと思った。

THさんへのインタビュー (no. 018)

○プロフィール

名前：THさん 性別：男性

学部：同志社大学神学部

インタビューアとの関係性：ゴスペルの授業で一緒になった高校の先輩

普段の活動：バイトと剣道と飲み会

内定会社：5社 サービス業の3つ インフラ系 介護系

エントリーシート：40～50社

現状：公務員を受ける。消防士になりたいが適性的にどうなのか分からないが受けてみようと思う。

～面接開始～

○どのようにして企業を選択していききましたか？

可能性は絞りたいくなかったし、また大企業や中小企業など企業のサイズにはこだわりたくなかった。リスクの問題があるが、楽しめる仕事が重要であり、やりがいや貢献度の高さが自分にとって必要だった。後、コンプライアンスなども。

リクナビやマイナビを見て調べた。

○他に受けた企業はどこですか？

最終に残ったのは10社であって、サービス業とインフラと介護系を受けていた。

○面接で驚いた内容とは？

- ・剣道でどの技が得意ですか
- ・説教された事もあった。

○就職活動で一番大変だったこと、それをどうやって乗り越えていったのか？

バイトと被っていて大変だった。3月は4回生がいなくなる。一番ベテランに仕事が回ってくるから。3・4月が特に忙しかった。色んなところに行くのが好きだから就活を楽しんでいた。色んな人とも会えるし、それきっかけの友達もいるので、義務と感じるよりも経験として考えたほうが良いと思う。チャンスとして捉えたほうが良い。自分の中で考えすぎるとドツボにはまる。

○面接の工夫

最低限の事は常に言えるように頭の中に雛形を作っておく。基本的に喋るのは得意なほ

うやから。余裕を持つ事。心持⇒これで落とされるかもしれないと思って受けたらダメ。話をしていると思う。自分を知ってもらうという機会だと考えた方が良い。

○ 勤務地について

関西で剣道を続けたいので関西に残りたい。仕事も大事であるが、プライベートも大事である。

○ 就職活動で得たものはなんですか？

スケジュール管理の能力。度胸。もっとたくさんあるが、これが一番得られたものだと思う。

○ 反省点

もうちょっと数受けていても良かったかなって思った。マルハンを受かって、滋賀銀行の最終まで行って「同志社の期待のホープ」など言われていて受かると思っていたのに受からなかった。コマが段々減っていき受からないとやばいと思った。就職活動は12月ぐらいから始めた。

○ 後輩へむけてのアドバイス

楽しめ。この機会って一回しかないから今回する・しないに関わらずプレッシャーと感じるのではなくチャンスだと思って欲しい。

○ まとめ

大学職員が人気となってきているという話を聞き、同志社の職員を志望されている方をインタビューする事が出来た。大学職員は福利厚生が充実していたり、給料が安定、また将来潰れることが滅多にないなどのメリットが多いそうだ。常に色々な事に興味を持ち、話を広げられるように出来る人と、プレッシャーよりもチャンスだと捉える人など、就職活動における就職活動生の心の持ち様などをたくさん話してくださった。

T I さんへのインタビュー (no. 019)

○プロフィール

名前：T I さん 性別：女性

学部：同志社大学経済学部経済学科

インタビューアとの関係性：同志社大学全学 EVE 実行委員会

普段の活動：バイト・学友団執行委員会

内定会社：1社 保険代理店

エントリーシート：30社

現状：5月末に決定して、どこか良いところがあれば就活するかもしれない。

～面接開始～

○ どのようにして企業を選択していききましたか？

金融をみていて、銀行証券、保険の順番に見ていた。たまに別業界を見ていた。鉄道とかメーカーを見ていた。今大学で金融を勉強したから金融の第一線で働きたかったから。鉄道は安定していて、食品とかは好きだから受けていた。

○ 他に受けた企業はどこですか？

メガバンクや地銀や大手証券、JR と京阪鉄道、メーカーはお菓子系を受けていた。飲料系を主に受けていた。

○ 面接で驚いた内容とは？

貴方は試験官になってください

営業の人になってください

証券は他のところの受けていること

女の人は厳しいと脅された。

○ 今年の就活について

総合職の女は取らないと思った。面接に行っても女の人が少ない。女性は特に脅され、業界のせいかもしれないが・・・。

○ 就職活動で一番大変だったこと、それをどうやって乗り越えていったのか？

精神的に厳しかったのが、5月頃だった。肉体的には4月が厳しかった。バイトで気分転換をしていた。

○ 面接の工夫

とりあえず声をはれてこと。雛形とかは特には作らなかった。それなりにどの企業も同じ様な内容を聞いてくるので、その場に応じて答えていた。

○ 勤務地について

全くこだわってなかった。実家の近くで最初は受けようと思って地銀などを受けていたが、どこでも行きますという感じにしたが、たぶん関西になると思う。

○ 就職活動で得たものはなんですか？

大阪市内の地図！地名など。色んな企業を知る事が出来た。

打たれず良くなったのではないかと思う。めげない心を得る事が出来た。

○ 反省点

最初は大手しか見ていなかったところ。企業を余り知らなかった。

あまり、説明会に行っていなかった。本格的に始めたのは4月からだった。

○ 後輩へむけてのアドバイス

就活就活だといわれているけど、今は遊んでいた方がいいのではないかな。

就活のためにインターンシップをするより他にしていたらいいのと思う。

今しか出来ない何かを打ちこんだ方が良いと思う。

○ まとめ

ゼミなどで総合職でどこでも行きますと言えば女性でもまだ就職口があると聞いていたので、本当に厳しかったと聞いて驚いた。

女性も働くようになってはいるが、やはりジェンダーバイアスはまだまだあるなど感じたインタビューだった。

T Jさんへのインタビュー (no. 020)

○プロフィール

名前：T Jさん 性別：女性

学部：同志社大学文学部英文学科卒業

インタビューアとの関係性：高校のクラブの先輩

内定会社：10社程度 製造・メーカーなど

エントリーシート：400社程度

現状：現在半導体の会社の総合職、技術系で設計の仕事をしている。

語学力に長けているので海外とくに支店が多くある会社に就職した。

～面接開始～

○どのようにして企業を選択していきましたか？

就職意識が高く、二回生ぐらいから意識はしていた。そのため、3回生の4月には資料請求を始めていた。マスコミは6月に面接などもあった。

まず重点をおいたのは会社の仕事内容よりも社風や人柄であった。

説明会やOB訪問、面接や同期などを見て人柄のよさそうな企業を選択していった。同じ会社には同じような人が集まるのだなと感じたそう。

企業選択を行った媒体はマイナビが主であったが、町を歩いていて看板を見てエントリーした企業もあった。合同企業説明会にはかなり行ってたくさんの資料をもらえるきっかけになった。

○今の会社はどのような感じですか？

今の会社はみんな優しくアットホームな感じで居心地が良いし、給料も良いから選んだ。仕事は大変でもやりがいを感じる仕事である。将来はいろんな国・ところに行きたいと考えている。

○他に受けた企業はどこですか？

マスコミ・製造・メーカー・航空など・・・

○面接で驚いた内容とは？

圧迫面接をしてきたマスコミの会社はずっと無視された。

結婚したらどうするの？

作文を書かされる。

はさみとカッターがあっちはさみを選ぶように説得させてください。

○ 自分の基準としていたものは？

社風が一番にきていた。もちろん通いやすさや給料、将来性も気にはしていたが、仕事内容よりも社の雰囲気を重視していた。

○ 就職活動で一番大変だったこと、それをどうやって乗り越えていったのか？

1 1月も教職関係があり忙しく、1 2月が一番大変であった。ストレスとは感じていなかったが途中で倒れて通院しながら面接にいていた。乗り越えた対策としてはいろいろな人と遊びに行ったり、しゃべったりしてストレス発散をしていた。

○ 面接の工夫

ぶっつけ本番で受けていた。周りの人たちは台詞みたいに感じた。引き出しをたくさん作ってあれば良いと思う。石倉さんは3つのネタを用意していたそうだ。それをうまく言い換えてしていたみたいだ。

○ 勤務地について

別にこだわっていなかった。むしろ外に飛び出したいという気持ちが強く、様々な国にも行きたいと面接で答えたそうだ。

○ どのような点について OB 訪問で聞いたら良いですか？

個人的に気になっていたことを聞いてみた。そうしたら、研修期間がどれくらいかについて聞いてみてはという回答だった。

○ まとめ

この先輩はかなりシュウカツにおいての成功者であるといえる。エントリーシートでは1枚も落ちたことがないそうで反省点もないそうだ。満足のいくシュウカツが出来たとおっしゃっていた。個人的に人材教育に力を入れている会社に就職できたら良いと考えているのでどのような点からそういう会社を見極めたらよいのかのアドバイスをいただけた。それで研修期間でどれくらい人材教育に投資してくれるのかという点を見るというアドバイスをいただけた。OB 訪問で実際どのようなことを聞けばよいのか、どのようなことまで聞いて良いのか分からなかったので参考になりました。